

九電本店前で、全国から来た 600 人が抗議 逃げ隠れする、瓜生社長を許さないぞ



▲10 万の署名を携え「住民説明会」を要求

3 月 2 日午後、全九州・全国から駆けつけた 600 人が九電本店前の広い歩道をうめました。九電が「事故は起こらない」というなら、30 キロ圏の全自治体で「安全説明会」を開け、という 10 万の署名を届けるためです。内 100 人が会議室に入り、申入れを行いました。

●会社として、責任をとろうとしない九電

社長の出席をあらかじめ求めていたにもかかわらず、出てきたのは広報の担当者ら 6 名のみ。まず社長を出せという追及から始まり、行動は異例の 5 時間以上となりました。

社長が出てこないのは、10 万の署名の重みを少しも考えていないということ。また川内原発再稼働にともなう事故の危険性について、会社として社会に説明責任を負わない、と言ったも同然です。広報担当は、「社長は出さない」、「理解を求めると言うだけでした。こんな



▲九電本店前で抗議する 600 人の参加者

態度では、10 万の皆さんの想いのこもった署名を提出するわけにはいきません。

●九電を追いつめ、社長を引っ張り出そう

この行動を主催した「3・11実行委員会」は、3/15 鹿児島パレードを行って、九電への抗議を強めます。また 4～5 月に、改めて瓜生社長への申入れ行動を設定することを決めました。緊急署名運動も続きます。

瓜生社長は、「3/11 までは予防保全だったが、現在は何があっても緩和できるような措置が求められている」(『南日本』1/20)、と言っています。要は事故は起こること。こんな会社に、住民の生命・財産を託すわけにはいきません。再稼働させないことが第一歩です。

★ストップ再稼働 3/15 鹿児島パレード

13:00～集会(鹿児島中央駅広場)→パレード